

誰にもわかりやすい言葉のくふう とりくみの広がる「やさしい日本語」

「避難！」と「にげて！」

昨年、東北地方で大きな地震があったときのことで、テレビの画面には急いで津波から避難するよう呼びかけるテロップが出ました。

そのひとつが右の画面です。

「津波！避難！」と漢字にはふりがながふられていました。



このごろは外国人や障害のある人のために、漢字にふりがなをふることが増えました。これもその一環でしょう。

ただ、私には少し違和感がありました。ふりがなをふるのは良いのですが、そもそも「避難」という言葉自体がとても難しい単語です。いくら読めても、その意味がわからなければ何もなりません。

これは民放の画面でしたが、NHKは少し違いました。



「すぐにげて！」これだけです。

これで不都合があるでしょうか？ この方がすぐ理解できますね。

いま日本には、200万人を超える外国人が暮らすようになりました。そのため、市役所や学校の文書で中国語やポルトガル語などに翻訳することが広く行われています。

でも、必要な情報のすべてを外国語に翻訳することは不可能です。少数の言語にも対応しきれません。

一方、中には日本で暮らすうちに小学校3、4年生程度の簡単な日本語ならわかるようになってきた方もいます。「避難」の意味はわからないけれど、「にげて」ならわかる、そんな人たちも少なくないのです。

ここで最近注目されているのが、弘前大学の社会言語研究室が開発した「やさしい日本語」というとりく

みです。

これは、東日本大震災のときに外国人市民の死亡率が日本人の約2倍だったことから、どのようにすれば災害情報を伝えられるかの研究から生まれたものです。

NHKもこの「やさしい日本語」を放送に取り入れていて、あのテロップが生まれたのです。

災害時だけではなく、このような工夫は日常生活のさまざまな場面でも応用できるはずですよ。

また外国人にわかりやすい言葉は、子どもや高齢者、障害者などすべての日本人にもわかりやすいはずですよ。



▲弘前大学の案内書

「やさしい日本語」の考え方

つぎのふたつの文章を比べてみてください。

今朝、5時46分ごろ、兵庫県の淡路島付近を中心に広い範囲で強い地震がありました。気象庁では、今後もしばらく余震が続くうえ、やや規模の大きな余震が起きる恐れもあるとして、地震の揺れで壁に亀裂が入ったりしている建物には近づかないようにするなど、余震に対して十分に注意してほしいと呼びかけています。

これを「やさしい日本語」にするとこうなります。

きょう あさ じ ふん ひょうご おおさか
今日 朝 5時46分、 兵庫 大阪などで
おお 大きな じしん 地震が ありました。
よしん あと く じしん ちゆうい
余震（後で 来る 地震）に 注意して
ください。
じしん たてもん ちゆうい
地震で こわれた 建物に 注意して
ください。

「漢字にふりがなをふる」のはもちろんですが、できるだけ「難しい漢字熟語はつかわない」、「主語と述語の構造をできるだけシンプルにする」、などの工夫をしています。

私たちが見落としがちなのは、「分かち書き」です。日本語文は続けて書くので、どこまでが名詞でどれが助詞か、実はとてもわかりにくい言葉です。「カネオクレタノム」の例ですね。漢字以上に、ここが日本語の難易度が高いポイントなのです。

また、「特に必要のない情報は省略する」ことも、肝心なことを伝える上では大切です。地震情報にはよく「〇〇を震源地とする地震」などとありますが、一般市民は別に震源地を知らなくても困らないはずですよ。

ところが、日本語をよく理解できない方はどれが大切な情報かわからず、文のすべてを一生懸命理解しようとしています。そのため、「すぐにげて！」といういばん大切な情報の理解にたどり着けないのでは、意味がありません。

文書が時候の挨拶から始まることもありますがこれもむしろ「ない方が親切」なのです。

「イラストや写真」はそれだけで多言語表示と同じ意味を持ちます。

文章だけでなく、「やさしい日本語」はピラや案内を作るときにも効果を発揮します。



▲やさしい日本語の案内ピラ

「やさしい日本語」の事例

これら「やさしい日本語」の考え方について、事例を紹介しておきます。

① 難しい言葉は、簡単な言葉に言い換える

「無料」→「お金は ^{かね}いりません」

「確定後」→「^き決まったら」

② 必要に応じて、補足説明をする

「津波」→「津波（^{つなみ}とても ^{たか}高い ^{なみ}波）」

③ ひとつの文を短くし、簡単な構造にする

「下の用紙にご記入の上、ご投函ください」

→「^{した}下の ^{かみ}紙に ^か書いてください。

そして、^{ゆうびん}郵便ポストに ^い入れてください」

④ 本当に伝えたいことだけに絞り込む

※ 時候の挨拶や不必要な情報は省略する。

⑤ あいまいな表現は使わない

※ 「おそらく」「思われます」など

⑥ 「分かち書き」をする

「あす また きて ください」

⑦ 元号は西暦に、年月日は「/」を使わない

H29/5/3 → 2017年5月3日

⑧ イラストや写真などを使う

「やさしい日本語」には、「これが正しい」というルールはありません。伝えるべき相手を考え、その人にとってどうすれば伝わるか、必要な情報は何かを考えることが大切なのです。

藤沢市でも検討を

「やさしい日本語」はその後、島根県や豊橋市、横浜市など各地で取り入れる自治体が広がっています。

藤沢市の「藤沢市外国人市民会議」も今年の3月に市に提出した提言書の中で、「情報は多言語表記が望ましいが、翻訳が難しければ、ひらがなや、やさしい日本語の情報を増やしてほしい」と要望しました。

9月議会では私の質問に「他の自治体の先進事例等を参考にしながら、『やさしい日本語』による文書作成について検討し、職員向け研修等にも取り組んでいけるよう、努めてまいりたい」と答弁がありました。

自治体だけではありません。いま学校でも、外国につながる子どもや障害のある子どもが増えてきました。

授業につまづいて、実は漢字や難しい言葉が十分理解できずにいる子どももいます。

学校での授業やプリントを「やさしい日本語」の発想で見直せば、どの子にもわかりやすいユニバーサルデザインの授業になるのではないのでしょうか。

ぜひ参考にさせていただければと思います。

「やさしい日本語」の参考サイト

● 弘前大学人文学部社会言語学研究室

<http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/kokugo/EJ1a.htm>

● NHKやさしい日本語ニュース

<http://www3.nhk.or.jp/news/easy/>

● 「やさしい日本語」スマホ用アプリ（愛知県）

<http://www.pref.aichi.jp/kokusai/easyjapanese/chiras/hi.pdf>

● 島根県文化国際課（多言語のサイト）

<http://www.pref.shimane.lg.jp/bunkakokusai/gaikokujinnsienn/>